

出原副委員長（自民議連）

令和5年3月1日

知事答弁実録

（教育委員会）

（問）多様性に触れる経験の重要性とグローバル教育を進める狙いについて

若年層の転出超過が進む中においても、グローバル教育は続けていくべきである。知事自身の経験も踏まえ、多様性に触れる経験の重要性と、グローバル教育を積極的に進めている狙いについて、知事の所見を伺う。

（答）

変化が激しく、不確実性・不透明性が高まる一方の世界にありまして、グローバルな課題だけではなく、地域の課題についても、その時々的情勢の中で、最適な解を見出して解決していくためには、自ら考えて学び続けるとともに、様々な価値観を持つ、多様な人々と協働し、新たな価値を創出していくことが極めて重要であると、県政運営に当たる中で、日々痛感しているところでございます。

このため、本県の子供たちが、できるだけ早い時期に、異なる文化や価値観に出会う機会を持てるよう、異文化間協働活動を推進するとともに、広島叡智学園や叡啓大学におきまして、多様性を尊重し、他者と協働する力の育成に取り組んでおります。

今後も、広島県で育ち学んだ若者が、広い視野とグローバルな感覚を持って広島県、日本、あるいは世界をフィールドに、「よりよい未来」を創造するつくり手として活躍できるよう取組を進めてまいります。